

世の中が 変わる時。

大島畠田遺跡と郡元西原遺跡

古代の終わり、大島畠田遺跡。中世の始まり、郡元西原遺跡。貴族の世から、武士の世へ。遺跡が語る、古代から中世への大転換。

2024 7.20^土 - 11.17^日

会場 都城歴史資料館
宮崎県都城市郡島町 803 番地 TEL: 0986-25-8011

開館時間 9:30 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)

休館日 毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌日休館)
9月18・19日 (水・木) は臨時休館

入館料 大人 220 円 (160 円)
高校生 160 円 (110 円)
小・中学生 110 円 (50 円)

() 内は 20 名以上の団体料金 / 毎週土曜日は小・中・高校生は無料 / 毎月第 3 日曜日は「家族の日」で高校生以下の子どもがいる家庭や妊婦中の人がいる家庭会員無料 / 障がい者手帳を持っている人 (介護者を含む) は無料 / 「子育て応援カード」を提示した高校生以下の子どものいる家庭や妊婦中の人がいる家庭会員無料 / 文化の日



企画展公式サイト



このポスターは、令和 6 年度国立重要文化財等保存・活用事業補助金を受けて作成しました。

ごあいさつ

6月24日、郡元西原遺跡を大島畠田遺跡の附として追加指定するよう、文化審議会が文部科学大臣に答申しました。

どちらも平安時代の遺跡ですが、大島畠田遺跡は古代社会が崩れ始めた頃にあられた地方有力者の屋敷跡であり、郡元西原遺跡は中世的な開発の始まりを示す居館跡です。

今回の企画展では、二つの遺跡を中心に、都城盆地の遺跡からみえてくる古代から中世への転換を紹介します。

都城歴史資料館 館長 戸高 博



へいあんじだい 平安時代って、なんだろう？



へいあんじだい いま やくせんねんまえ じだい
平安時代は今から約千年前の時代です。794年(8世紀末)に
かんむてんのう へいあんきょう
桓武天皇が都を平安京に移した時から始まり、1185年(12世
みなもとよりとも かまくらばくふ
紀末)に源頼朝が鎌倉幕府を開くまで、約400年間続きました

ならじだい てんのう せいじ しき
奈良時代から続いてきた天皇を中心とする政治の仕組み(リつりょうたいせい)
ふじわらし きぞく
律令体制)がくずれ、藤原氏などの貴族が大ききな力をもつとともに、
おらさきしきぶ せいしやうなごん
大河ドラマにも出てくる紫式部や清少納言などが活やくし、はなや
けいじゆつ はなひら じだい
かな芸術・文化が花開いた時代です。「古代」ともよばれます。

せいじ しき か ちほう
また、政治の仕組みが変わっていくことで、地方には新しい有力
しやたち とち けんりよく あらそ たたか
者達が生まれてきました。彼らは土地や権力をめぐる争いの中で戦
ぶりよく ぶしだん せいちやう
う力(武力)を身につけ武士団へと成長します。そして、武士を中
かまくらばくふ じだい ぶし よ ちゆうせい
心とした鎌倉幕府が生まれ、時代は武士の世である「中世」へと
うつか
移り変わっていきました。





みやこのじょうぼんち へいあんじだい 都城盆地の平安時代



へいあんじだい みやざき かごしま ひゅうがのくに
平安時代、宮崎県と鹿児島県の一部は日向国とよばれていました。
た。国はいくつかの郡にわかれ、都城盆地は諸県郡にありました。
ひゅうがのくに せいじ
日向国の政治の中心は、今の西都市にあった「日向国府」でした。
ひゅうがのくに いちばんおお たてもの こくちよう おさ みやこ
そこには日向国で一番大きな建物の「国庁」があり、都から来た
こくし が地元の役人などを使って国を治めていました。
みやこのじょうぼんち へいあん いせき
都城盆地ではたくさんの平安時代の遺跡がみつかっています。し
かし遺跡の数がとても多い時期とほとんどない時期とがあります。
へいあんじだい みやこのじょうぼんち
平安時代の都城盆地では、いったい何がおこっていたのでしょうか？



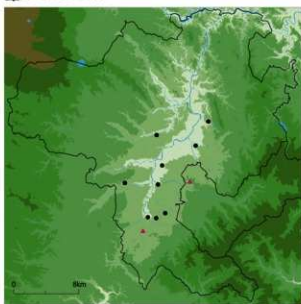
へいあんじだい 平安時代がはじまるよ



ならじだい みやこきゅうしゅう ぶんか はやと
奈良時代の南九州では、地元の文化やくらしを守る「隼人」とよ
ばれた人々と朝廷とが争っていました。都城盆地は朝廷側の前線
ち 地だったと考えられています。遺跡はほとんどみつかりません。

「隼人」との争いが落ち着いたら
みやこのじょうぼんち
8世紀後半ごろから、都城盆地
では少しずつ遺跡がふえはじめ
ます。役所(上之園第2遺跡・
やくしょ うえのその いせき
早鈴町)、寺(中尾下遺跡・
はやすず なかおした いせき
しもかわしがし くかく とどの すいでん
下川東)、区画の整った水田
からみだ いせき たかじょう
(柵田第1遺跡・高城町)と考
えられる各遺跡からは、朝廷が
かくいせき ちやうてい
進める律令体制が都城盆地にも
りつりようたいせい みやこのじょうぼんち
ひろがってきたことがわかります。

8世紀後半～9世紀初頭の遺跡



● 遺跡 ▲ 観音寺
鹿児島県大島郡大島町「大島 郡元西原」にある古墳群(大島古墳群)の位置を示した地図。 参考:鹿児島県文化庁「大島古墳群」



りつりょうたいせい 律令体制



「^{りつ}律」・「^{りょう}令」とは、今の^{ほうりつ}法律のことです。^{ほうりつ}法律にもとづいて世の中を^{しく}治める^{しごと}仕組みのことを^{りつりょうたいせい}律令体制とよびます。^{あすか}飛鳥時代から始まり、^{なら}奈良時代・^{へいあんじだい}平安時代にかけて続きました。^{みやこ}都では^{てんのう}天皇を中心とする^{せいじ}政治の^{しごと}仕組みが^{ととの}整えられ、^{かくち}地方には各地を^{むす}結ぶ^{ぜい}道や^{やくしよ}税を集める^{つく}役所などが造られました。

また、土地は国のものとなり、^{のう}農^{じん}民は国から^{あた}与えられた^{たがや}田を^{ぜい}耕し、^{おさ}税を納めました（^{こうちこうみん}公地公民）。



はじき 土師器



^{へいあんじだい}平安時代の^{いせき}遺跡からは、^{はじき}土師器とよばれる^{すや}素焼きの^{うつわ}器が^{しゅつど}たくさん出土します。

今のお茶碗と同じような形のもの、^{つき}坏や^{わん}椀などとよばれ、^{しょつき}食器として使われていました。どれも同じような形にみえますが、^{じき}時期によって少ずつ形が変わっていて、^{いせき}遺跡の^{じき}時期を知る手がかりとなります。





おおしまはたけだいせき ひら ゆめ 大島畠田遺跡が拓いた夢

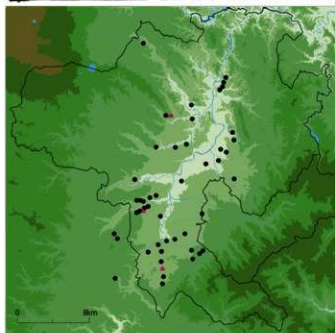


9世紀後半から10世紀前半にかけて、^{みやこのじょうぼんち}都城盆地ではいろいろな場所てたくさんの遺跡がみつかります。

このころは、国のものだった土地を自分のもののできるようになってきたことなどから、新しく田や畑を切り開いたり、^{き ひら}貧しい農民から土地を買い集めたりして、地方に「有力者」(大金持ち)が生まれ、^{か あつ}開発が大きく進んだ時期とされています。

^{みやこのじょうぼんち}都城盆地で遺跡が増えていくようすは、^{ぜんこくてき うご}このような全国的な動きにつながるものと考えられます。そして、とんでもなく大きな^{たてもあと}建物跡やたくさんの^{こうきゆう ゆにゆうとうじき}高級な輸入陶磁器などがみつかった^{くにしせき}国史跡・大島畠田遺跡は、^{みやこのじょうぼんち}都城盆地で採れる^{と さくもつ}作物のほとんどを^{かんり}管理できるような、大きな力をもった「地方の有力者」の屋敷の跡と考えられます。

9世紀中ごろ～10世紀前半の遺跡



● 遺跡 ▲ 威骨器

東洋館2009「国・都城盆地における古代遺跡の動向」『大島田は
皇土の発展に成立したのか』『季刊史九文化』第109号に収録



大島畠田遺跡出土遺物

ずかい おおしまはたけだ
大凶解！ 大島畠田遺跡！



大型掘立柱建物跡！ 88 量もあるんだよ



門の跡！ こんな門だったのかな



宇治給道物語 都城高津原屋

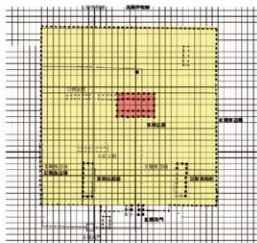


池の跡！ 真ん中の島には柱の穴があるよ

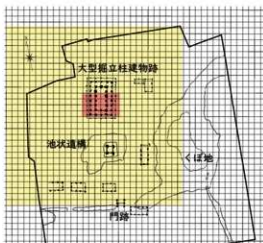


大島畠田遺跡想像図 (画：早川和子)

おおしまはたけだ
でっかいぞ！ 大島畠田遺跡



1 グリッド1尺・約2.30m 日向国府跡



大島畠田遺跡

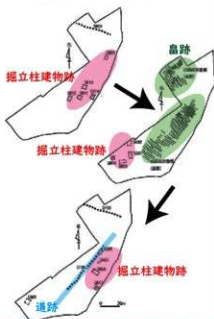
大島畠田遺跡の建物や屋敷の広さは、日向国府と同じ位の大きさがあります。地方有力者のくらしがよくわかる遺跡は全国的にも数少なく、平成 14 年に国史跡に指定されました。

はたけ
ムラから畠へ。そして道へ。
ほしはら いせき
星原遺跡

星原遺跡（南横市町）は、横市川を見下ろす少し高い場所にあります。

9世紀後半から10世紀の始めにかけての時期、最初は掘立柱建物が並ぶムラでしたが、ほどなくコ字状に並ぶ建物と広い畠に造り変えられます。そのあとは、新しい道に変わったようです。

約50年の間でムラ→畠→道と変わっており、開発を進めた人がどんどん入れかわったのではないかと考えられています。



みち えき まめだ いせき なみきぞえ いせき
道と駅と。 真米田遺跡・並木添遺跡

平安時代には、都と各地を結ぶ官道（現代の国道）が造られ、乗りかえ用の馬や泊まる所を備えた「駅」が置かれていました。都城盆地には「島津駅」と「水俣駅」があったとされています。

並木添遺跡（高木町）では、最大幅約6mの道の跡がみつかりました。都城盆地でこれまでみつかった道の中では一番大きく、重要な道だったと考えられています。

真米田遺跡（高城町）では、細長い大型の掘立柱建物跡や円形の溝で囲まれたお墓などがみつき、たくさんの輸入陶磁器や都で焼かれた陶磁器などのほか、都城で初めて硯（風字硯）が出土しました。硯やたくさんの陶磁器、ほかの地域でみつかった駅の遺跡とようすが近いことから、「水俣駅」の跡ではないかと考えられています。



開発の光と影



10世紀前半までは都城盆地^{みやこのじょうぼんち}のあちこちに遺跡^{いせき}がみられますが、10世紀後半から11世紀中ごろにかけては、ほとんどみられません。

いったい何がおこったのでしょうか？

その原因^{げんいん}の一つに、気候^{きこう}が変わってきたことが考えられています。8世紀から9世紀ごろまでは暖かな気候^{あたたかきこう}でしたが、10世紀に入ると寒^{さむ}く、雨^{あめ}の少ない気候^{さくまう}に変わりました。また、とてもたくさんの雨^{あめ}がふる年^{あつ}や暑い年^{あつ}もあり、不安定^{ふあんてい}だったとも考えられています。

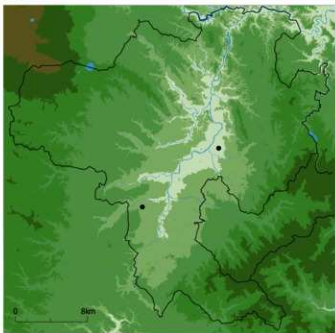
それまで都城盆地^{みやこのじょうぼんち}で行われていた開発^{かいはつ}は、星原遺跡^{ほしはらいせき}のように入れかわりのはげしいようすから、先のことをあまり考えずにどんどん進められた開発^{かいはつ}だったのではないかと考えられます。

気候^{きこう}が変わることで、作物^{さくもつ}がうまく育たなくなり、それをのりこえられるような農業^{のうぎょう}の技術^{ぎじゆつ}や世の中の仕組み^{しく}もなく、今までのくらしを続けることができなくなったのかもしれない。

10世紀後半～11世紀前半の遺跡



10世紀から11世紀の土器



● 遺跡

環境省2009年「国 都城盆地における古代遺跡の調査」「鳥取県は歴史的変遷に富んだ土地」『学術文化』第109号に基き



昔の気候を調べよう



昔の気候を知るには、木の年輪を調べる方法があります。年輪は1年に1枚ずつ増えていきます。その1枚1枚に含まれている「酸素」を調べることで、その年の夏に降った雨の量がわかります。この方法を使って、屋久島などの木を調べると、10世紀には雨の量がへり、11世紀に入ると雨の量が増えてきたことがわかりました。また、昔の人が書いた役所の書類や日記などからも、大雨や台風、雨がほとんどふらなかった年など、いろいろなことがわかります。



にげろ！ 洪水だ！



柵田第1遺跡（高城町）、馬渡遺跡（菟原町）、外ノ口遺跡（山田町）などでは、10世紀ごろの洪水のあとがみつかっています。柵田第1遺跡では、きれいに区画された水田が、洪水で運ばれた大きな石や砂、泥などで埋まっていました。この洪水も気候変動によるものだったのでしょうか？

また、この遺跡では、洪水でできたデコボコにたまった泥を利用して、人々がもう一度水田を造り始めていたこともわかりました。しかし、新しい水田は洪水の前とはちがひ、小さくていびつな形の水田だったようです。



柵田第1遺跡の洪水堆積層



こおりもとしばるいせき

郡元西原遺跡から始まる物語



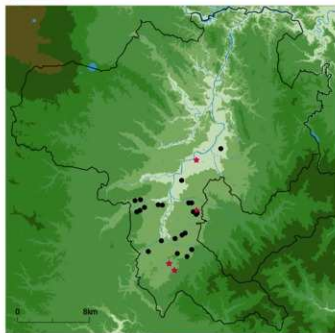
11世紀後半ごろから、都城盆地には再び遺跡が増えてきます。特に早水・郡元地域や梅北地域など、盆地の南に多くみられます。

郡元西原遺跡は、早水・郡元地域の平安時代遺跡の中で最も古い遺跡の一つです。約50m四方の溝で囲まれた屋敷の跡で、西側と南側には、幅6m、深さ1.8mもある大きな溝が造られていました。

これまでの早水・郡元地域の発掘調査から、遺跡で見つかる多くの溝や建物が、郡元西原遺跡と同じ方向にそっていることがわかってきました。

このことは、11世紀後半から、区画に基づいた計画的な土地の使い方（開発）が始まったことを示しており、郡元西原遺跡は、その開発の中心となる屋敷だったと考えられます。

11世紀後半～12世紀の遺跡



● 遺跡 ● 経塚

奈良文化財研究所「国 郡元遺跡における古代遺跡の調査」『高津原は
高土の成りに成したのか』『学術雑誌』第19号に収録



郡元西原遺跡出土遺物

すかい 大凶解！ こおりもとにしはる 郡元西原遺跡！

大溝で囲まれた館の推定範囲



大溝の角の部分だよ



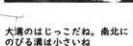
トレンチを西から見た写真だよ。真ん中が大溝



少し小さな溝がみつかったよ



孤立柱建物跡がみつかったよ

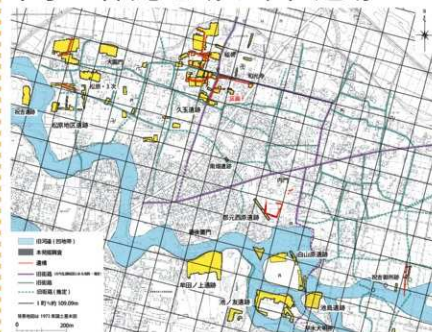


孤立柱建物跡



大溝のはじっこだね。南北にのびる溝は小さいね

はやみず こおりもと ちゅうせい 早水・郡元地域の中世遺跡



早水・郡元地域の昔の道や畑[※]は、東に約14度傾いた1町(約109m)四方の区画にそってると考えられます。遺跡でみつかる溝や建物などもほぼ同じです。この区画は、11世紀後半に屋敷や畑を造り始めた時の計画を引き継いでいると考えられます。

※ 区画管理地の地割



しょうえん 莊園



きぞく お寺 じんしゃ などがもつ 土地 のことです。多くは くに (朝廷) に 税を納めなくてもよい土地でした。

しょうえん は 8 世紀ごろから 始まり、10 世紀に入ると、地元の有力者たちが、新しく整備した田や畑を都の貴族に贈る(寄進)ようになったとされています。貴族に年貢などを払わなくてはなりませんが、国の税よりも色々とお得だったようです。こうして莊園は全国にひろがっていきました。



武士のはじまり



こおりもとに しまるい せき 郡元西原遺跡のまわりでみられるような、ある範囲の中で四角い 区画にそって田や畑を整備していく方法は、多くの莊園開発にみられるやり方とされます(領域型開発)。

また莊園開発が進むと、莊園と国府や莊園同士の間で土地をめぐる争いがはげしくなってきます。

莊園にかかわる地元の有力者たちは、戦う力(武力)を身につけ、土地の争いを続ける一方、都の貴族などとの関係を強め、次の時代の主役となる武士へと成長していきました。



11 世紀後半～13 世紀土坑墓出土遺物

ほとけ たら すいでん
仏と寺と水田と。

はやみず
早水地域の遺跡

はやみず いけ わ おきみず こふん ほくさんぼる いけしま いけ
早水池の湧き水まわりでは、沖水古墳や白山原遺跡、池島遺跡、池
ノ友遺跡などたくさん遺跡が見つっています。

おきみず こふん おきょう きょうつづつ
沖水古墳からは、お経をいれるための銅で作られた入れ物（経筒）、
白山原遺跡ではお寺などで使う道具をつくるための道具（鋳型）がみ
つかりました。

また、白山原遺跡ははやみず いけ
から続く浅い谷の部分にあたり、水田を
つくっていたこともわかりました。

早水池のまわりには、大切な水を
守るため、お祈りをするお寺があっ
たのかもしれない。



沖水古墳

やかた はか
館とお墓。

こおりもと
郡元地域の遺跡

おきみず
沖水川を見下ろす郡元地域の北部では、まつばらちちく くたま
松原地区遺跡や久玉遺跡
など、大きな溝に囲まれた屋敷の跡（館）が見つっています。

まつばらちちく
松原地区遺跡の第1次調査では台地の端を大きな溝で区切った13
世紀後半から14世紀前半の屋敷の跡が見つかりました。4次調査で
は屋敷の跡とその敷地内に造られたお墓が見つかりました。お墓の
中には大陸から輸入されたお茶わんが
入れられていました。

都城盆地では、このようなお墓が、
うめきた ふてなし おうじぼる
梅北地域の筆無遺跡や王子原遺跡など
でもたくさんみつっています。



松原地区遺跡・第1次調査



しまづのしょう

島津荘と都城盆地



11世紀の始め、大宰府の役人だった平季基が都城盆地の島津院とよばれる地域を開発し、そのころ都で最も力のあった藤原頼道に贈った（寄進）ことで島津荘ができました。

平季基が都城を選んだ理由としては、地元の有力者達の協力や国府から遠かったこと、南の珍しいものを手に入れやすかったからともいわれます。

その後、島津荘はひろがり続け、鎌倉時代には南九州の半分以上が島津荘に関係する土地となっていました。

島津荘が始まったとされる島津院は、今の早水・郡元地域のあたりとされています。島津荘がひろがる時期にあたる郡元西原遺跡は、島津荘の中心的な施設だった可能性も考えられます。



その名は、島津！



12世紀の終りごろ（1185年）、鎌倉幕府の源頼朝から、惟宗忠久が島津荘の管理をする役人の仕事（下司職）につくように命じられました。

惟宗忠久は荘園の名前から「島津忠久」という名前を使うようになりました。これが島津氏の始まりです。

また、忠久は都城の郡元に屋敷を造って住んだともいわれており、その場所は祝吉御所として伝えられています。



祝吉御所伝承地

令和6年度都城歴史資料館企画展 「大島富田遺跡と郡元西原遺跡」展示一覧

展示品	遺跡名	器種	所蔵
「平安時代って、何だろう？」			
1	土師器 加治屋B遺跡	環	都城市教育委員会
2	土師器 小田・藤束遺跡	環・小皿	都城市教育委員会
3	土師器 他穴遺跡	甕	都城市教育委員会
4	土師器 他穴遺跡	環	都城市教育委員会
5	須恵器 他穴遺跡	環	都城市教育委員会
6	須恵器 他穴遺跡	高台付椀	都城市教育委員会
7	土師器 上ノ岡第2遺跡	環	都城市教育委員会
8	須恵器 上ノ岡第2遺跡	環	都城市教育委員会
9	須恵器 上ノ岡第2遺跡	蓋	都城市教育委員会
10	土師器 中尾下遺跡	環	都城市教育委員会
11	松ぼっくり 中尾下遺跡	-	都城市教育委員会
12	木製品 中尾下遺跡	柱	都城市教育委員会
13	木製品 中尾下遺跡	杭	都城市教育委員会
14	墨書土器 中尾下遺跡	「浄〇」	都城市教育委員会
15	墨書土器 中尾下遺跡	「上」	都城市教育委員会
16	墨書土器 中尾下遺跡	「欄」	都城市教育委員会
17	墨書土器 中尾下遺跡	「井」	都城市教育委員会
18	土師器 榎田第1遺跡	環	都城市教育委員会
19	土師器 榎田第1遺跡	把手付土器	都城市教育委員会
20	土師器 榎田第1遺跡	甕	都城市教育委員会
21	土製品 榎田第1遺跡	土師	都城市教育委員会
「大島富田遺跡が伝えた事」			
22	土師器 山城第1遺跡	甕	都城市教育委員会
23	須恵器 山城第1遺跡	甗	都城市教育委員会
24	土師器 山城第1遺跡	環	都城市教育委員会
25	土師器 山城第1遺跡	高台付椀	都城市教育委員会
26	土師器 大島富田遺跡	環	都城市教育委員会
27	須恵器 大島富田遺跡	高台付椀	都城市教育委員会
28	黒色土器 大島富田遺跡	高台付椀	都城市教育委員会
29	緑釉陶器 大島富田遺跡	-	都城市教育委員会
30	灰輪陶器 大島富田遺跡	-	都城市教育委員会
31	青磁 大島富田遺跡	-	都城市教育委員会
32	白磁 大島富田遺跡	-	都城市教育委員会
33	土師器 馬渡遺跡	環	都城市教育委員会
34	土師器 馬渡遺跡	耳皿	都城市教育委員会
35	墨書土器 馬渡遺跡	-	都城市教育委員会
36	墨書土器 馬渡遺跡	-	都城市教育委員会
37	緑釉陶器 馬渡遺跡	碗	都城市教育委員会
38	土師器 星原遺跡	甕	都城市教育委員会
39	土師器 星原遺跡	環	都城市教育委員会
40	土師器 筆無遺跡	環	宮崎県埋蔵文化財センター
41	土師器 真米田遺跡	環	都城市教育委員会
42	土師器 真米田遺跡	高台付椀	都城市教育委員会
43	土師器 真米田遺跡	把手?	都城市教育委員会
44	風字硯 真米田遺跡	-	都城市教育委員会
45	転用硯(須恵器) 真米田遺跡	-	都城市教育委員会
46	碁石 真米田遺跡	-	都城市教育委員会
47	火打石 真米田遺跡	-	都城市教育委員会

展示品	遺跡名	器種	所蔵
48	紡錘車 真米田遺跡	-	都城市教育委員会
49	製塩土器 真米田遺跡	-	都城市教育委員会
50	須恵器 採集品	瓶	都城市教育委員会
51	土師器 加治屋B遺跡	環	都城市教育委員会
52	土師器 江内谷遺跡	環	都城市教育委員会
53	木製品 江内谷遺跡	櫛	都城市教育委員会
54	木製品 江内谷遺跡	曲物の底板	都城市教育委員会
「開発の光と影」			
55	土師器 平田遺跡	環	都城市教育委員会
56	土師器 平田遺跡	高台付椀	都城市教育委員会
57	土師器 平田遺跡	小笠	都城市教育委員会
58	土師器 坂元B遺跡	環	都城市教育委員会
59	墨書土器 坂元B遺跡	-	都城市教育委員会
60	洪水堆積 菅ヶ追遺跡	-	都城市教育委員会
「郡元西原遺跡から始まる物語」			
61	土師器 郡元西原遺跡	環	都城市教育委員会
62	土師器 郡元西原遺跡	小皿	都城市教育委員会
63	黒色土器 郡元西原遺跡	高台付椀	都城市教育委員会
64	白磁 郡元西原遺跡	-	都城市教育委員会
65	青磁 郡元西原遺跡	-	都城市教育委員会
66	東播系須恵器 郡元西原遺跡	甕	都城市教育委員会
67	東播系須恵器 郡元西原遺跡	片口	都城市教育委員会
68	常滑焼 郡元西原遺跡	甕	都城市教育委員会
69	銅製品 沖水古墳	緑銅	都城市教育委員会
70	土製品 白山原遺跡(4次)	罎型	都城市教育委員会
71	木製品 白山原遺跡(2次)	木椀	都城市教育委員会
72	木製品 白山原遺跡(2次)	木椀	都城市教育委員会
73	木製品 白山原遺跡(2次)	木椀	都城市教育委員会
74	白磁 池島遺跡	碗	宮崎県埋蔵文化財センター
75	初期高麗青磁 池島遺跡	皿	宮崎県埋蔵文化財センター
76	青磁 池島遺跡	合子	都城市教育委員会
77	土師器 池ノ友遺跡	環	都城市教育委員会
78	土師器 池ノ友遺跡	小皿	都城市教育委員会
「鳥津花と都城盆地」			
79	白磁 松原地区遺跡(4次)	碗	都城市教育委員会
80	土師器 松原地区遺跡(4次)	小皿	都城市教育委員会
81	青磁 鴨尾遺跡	碗	宮崎県埋蔵文化財センター
82	白磁 筆無遺跡	碗	宮崎県埋蔵文化財センター
83	土師器 筆無遺跡	小皿	宮崎県埋蔵文化財センター
84	鉄製品 筆無遺跡	刀子	宮崎県埋蔵文化財センター
85	土師器 筆無遺跡	高台付椀	宮崎県埋蔵文化財センター
86	土師器 筆無遺跡	甕	宮崎県埋蔵文化財センター
87	白磁 大浦遺跡	碗	宮崎県埋蔵文化財センター
88	土師器 大浦遺跡	環	宮崎県埋蔵文化財センター
89	白磁 王子原遺跡上安久遺跡	碗	都城市教育委員会
90	白磁 王子原遺跡上安久遺跡	小皿	都城市教育委員会
91	土師器 王子原遺跡(4次)	環	都城市教育委員会
92	土師器 王子原遺跡(4次)	小皿	都城市教育委員会